

2021 年 全日本自転車競技選手権 -BMX- における
新型コロナウイルス感染拡大予防対策

公益財団法人 日本自転車競技連盟

2021 年度の全日本自転車競技選手権 -BMX レース-（以下、本大会）の新型コロナウイルス感染拡大予防対策は、（公財）日本自転車競技連盟が示すガイドラインに沿って行われますが、種目特性、自治体との協議、現在の感染拡大状況等を踏まえ、本大会における独自の感染拡大予防対策を下記の通り示します。

はじめに 本大会に関わる全ての方へ

- 新型コロナウイルス感染症が全国的に拡大しています。このような状況下で、全日本選手権のような全国規模の大会を開催することは、必ずしも社会全体からの賛同・理解を得ていないことを、関係者は理解することが必要です。
- 全日本選手権の開催は、私たちにとって必要不可欠なものであると信じていますが、大会開催が、新型コロナウイルス感染症の拡大を誘発することは絶対に避けなければなりません。
- 大会に参加・参画するすべての方には、全日本選手権を開催する社会的な意義とそれに伴う責任を十分に理解の上、BMX やスポーツ界が、社会からの信頼を損なわないための自覚と行動を強くお願いいたします。
- そして、選手らの感染リスクを高めない大会を開催できるよう、関係するすべての人々が最大限の努力を行うことを求めます。
- なお、全日本選手権に参加・参画する全ての方は、新型コロナウイルス感染症に関する正確な情報を入手し、感染者・濃厚接触者・感染疑い者等に対する誤解や偏見に基づく差別を絶対に行わないことを求めます。

I. PCR 検査の義務

大会開催日に来場する者は、全員、事前に PCR 検査の陰性結果を確認することとする。

(1) 対象

- ① 選手
- ② 選手に帯同する家族、保護者、サポートスタッフ等
- ③ 大会役員・運営スタッフ
- ④ 報道
- ⑤ 関係者として会場に来場する者（大会スポンサー等）

(2) 検査種別

検査精度の観点から、抗原検査ではなく PCR 検査とする。

(3) 公平性

下記指定期間における PCR 陰性の結果を示すことができない選手およびその家族には、会場への入場・大会への出場を一切認めない。抗原検査による代替も不可とする。

(4) 検査機関・方法

各自手配とする。なお PCR 検査はクリニックで数万円かかるものから、数千円で行えるものまで様々ある。地域により条件差もあるため、事前によく調べて手配すること。インターネットでキットを購入し郵送にて検査するタイプの物も使用可能。但し郵送のタイムラグ、メーカー都合の結果通知遅延等には自己責任において十分注意すること。

(5) 検査日時

検査は大会初日(公式練習日を含む)の 0:00 から起算して 72 時間以内のものを有効とする。すなわち、本大会は 9 月 22 日(水)以降の日付を有効とする。それ以前の検査結果は本大会への参加条件としては無効である。

(6) 回数

陰性の確認は、来場初日の 1 回のみ。会期中毎日の検査は求めないが、検査後は感染リスクの高い行動を避けるよう特に意識して行動すること。

(7) 結果の申告

受付時に検査陰性結果の提示を必須とする。**確認時は、【検査機関・氏名・検査日・結果(陰性)】を示すこと。**通知メールやログイン画面のスクリーンショット等も可能とする。陰性証明書は必須ではない。

(8) 大会会場へ移動開始後に陽性通知を受けた場合陽性の場合

大会会場へは入らず、接触する人を最小限に減らした上で地域の保健所・医療機関へ連絡し、指示を仰ぐ。

大会事務局にも報告する。(racing@japanbmx.com)

(9) 検査費の補助

出場選手および帯同する保護者等の検査費用は各自負担とするが、一選手につき一律で実質 2,000 円の補助を行う。(エントリー費を昨年比で 2,000 円減免)

II. 入場制限

1. 感染拡大リスクを最小限に抑えるために無観客開催とする。これにより、大会会場への一般観客は一切入場不可とする。会場内では待機場所等のエリア分離(ゾーニング)等を行い、密集を避ける対策を厳格に行う。
2. 選手に帯同する家族等、会場に来場する者は一選手あたり最大計 2 名での来場とし、運営スタッフ、報道、関係者も最小限の体制に見直すこととする。
3. 入場に必要手続き
 - (1) 事前申請(目的:人数把握) フォーム等は大会ウェブサイトにて案内
 - (2) 入場パスの受取(当日配布予定)
 - (3) 当日確認(健康チェック・来場チェック)

III. 選手・保護者・大会関係者の注意事項

1. 大会直近 2 週間の検温と行動記録を行い、主催者から求められた場合は指定された方法により速やかに提出する。
2. 体調が優れない場合（発熱や風邪の症状などを含む）や、陽性者との濃厚接触者と判断された場合には大会会場へ来場しない。
3. 大会前 14 日以内に海外からの帰国者との濃厚接触がある場合には、自主的に参加を見合わせる。また海外遠征にともない、大会が帰国後 14 日以内の選手は参加不可とする。
4. 会場内では常にマスクを着用する。ただし、人と十分な距離（少なくとも 2 m 以上）が確保できる場合には適宜マスクをはずしても良い。競技中の選手もマスクを着用しなくてよい。
5. 食事の際は、黙食・個食を心がけ、向かい合って食べないこと、喋りながら長時間かけて食べないことに注意する。
6. 気温等により、熱中症の予防に努める。
厚生労働省「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_coronanettyuu.html
7. 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）をダウンロードする。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html
8. 新潟県新型コロナお知らせシステムを登録する。
<https://drive.google.com/file/d/1WgUoqFDPABMOq2UcymcgFOZZAPtauEGA/view?usp=sharing>
9. 応援はソーシャルディスタンスを保って行う。飛沫が飛び散る大声での声援や、ハグ・肩くみなど他者と密着する行為は行わない。ただし家族はソーシャルディスタンスの対象としない。
10. 会場内および会場周辺での飲酒・喫煙は一切禁止とする。
11. 自宅または宿泊場所等から会場へは直行・直帰を心がけること。食料等の買い出しの際はまとめ買いを心がけ、回数を減らすこと。
12. その他の感染リスクの高い行動も、大会中は特に慎む。家族以外との会食は行わないこと。
13. 人流を最小限に抑えることが感染拡大防止につながることを理解し、最小人数で参加すること。

IV. 競技会について

1. 練習走行
 - (1) 選手は、他選手との会話を控え、走行時以外は適度に距離を保つ。
2. 出場待機
 - (1) 1 グループの人数が 1 m 以上の間隔をあけて待機できる場所（待機エリア）を確保し、選手は 1 m 以上空けて待機する。
 - (2) 待機エリアに消毒液を設置し、集合した選手は手指を消毒する。
 - (3) ハグ、肩くみなど他者と密着する行為は控える。
 - (4) 待機エリアでの密集を回避するため、各レースの招集タイミングを調整する。

3. 出走後

- (1) 各自の出走が終了したら、速やかにコース上から退出する。
- (2) 選手が各自のピットエリアに戻ったタイミングで、マスクを着用する。

4. 表彰式

- (1) クラス別に実施するなど密集回避に努めたスケジューリングを行う。
- (2) 待機する者や表彰式を観覧する者は必ずマスクを着用し、他者と1 m 程度の間隔をとって観覧すること。ただし、表彰を受ける者は、登壇中はマスクを外しても良い。

V. 救護

1. 発熱等の体調不良者が出た場合には、保健所への連絡、医療機関の受診及び自宅やホテルでの待機を求める。移動が必要な場合には、公共交通機械を使用しないなど手段に留意する。
2. 救護にあたる場合は特定のスタッフが対応し、スタッフは必ずマスクやフェイスシールドを着用する。

VI. 主催者の入場者管理

1. 事前登録制の来場管理等により、来場者のメールアドレスを把握する。
2. 入口で検温（非接触体温計でスタッフが検温）を行う。37 度以上の場合、体調不良がないかを口頭で確認、37.5 度以上で入場不可とする。
3. 入場時のマスク着用を必須とする。
4. 消毒液を設置し、手指消毒を促す。
5. 入場者と退場者が密集しないよう導線を工夫する。

VII. 主催者の会場づくり

1. 誘導スタッフの配置や導線の工夫により、密集が生まれないよう工夫する。
2. 会場内（入口以外）に1箇所以上、消毒液を設置する。
3. トイレのドア、手すりなど不特定多数が触れる場所は、1時間に1回程度、消毒液で拭く。
4. 観覧スペースでは、椅子等の間隔を前後それぞれ1 m 程度設ける。
5. 会場のキャパシティを超えた場合、入場制限を行う。
6. 水分補給や軽食、熱中症回避等により一時的にマスクを外すことは問題ないが、その間は他者と密接しない、大声を出さない等の配慮を求める。他者と密集した状態での飲食は避けるよう促す。
7. 主催者の定める予防対策が遵守されない場合は、会場から退場させることができる。